

答辞

暖かな陽の光が差し込み、桜の開花を今か今かと待ちわびる今日この佳き日、令明会235名、山形県立山形東高等学校卒業の日を迎えられましたことを大変喜ばしく存じます。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、我々が感謝を申し伝えさせていただきたい保護者の皆様、同窓会の皆様、そして今後の山東への希望を託したい誇らしい後輩の姿がこの会場にないことは極めて残念であります。先般の県立高校卒業式に対する山形県教育委員会の通知に関しては、県内のコロナウイルス感染状況に基づく判断をしていただきたかったというのが私の本音ではありますが、このような状況の中で先生方、保護者を代表して三浦祥子様のお臨席を賜わり、このように山形県立山形東高等学校校第七十回卒業証書授与式を挙行していただきましたこと、卒業生一同心より感謝申し上げます。有難うございます。

三年間、今振り返ってみると本当に一瞬で過ぎ去ってしまいました。この講堂で当時の同窓会長浜田敏様より「山東生活のコツを一言で言えばコツコツ努力を積み重ねることである。」というユーモアを交えた祝辞をいただいた入学式。あの日がつい昨日のように「光陰矢の如し」という言葉を身をもって体感しています。しかし、山東で過ごした一日一日が非常に濃い時間であったことは言うまでもありません。

学習のスピードの速さやハードさに幾度となく打ち拉がれながら最後まで戦い抜いた大学受験までの道のり。部員の仲間と協力し、切磋琢磨しお互いを高め合いながらより良いものを求めた部活動。興味のあるテーマについて深く調査・研究・実践し、高校生の社会参画の可能性に触れた探究活動。えがお大作戦や山東SDGsプロジェクトなど地域や世界と積極的かつ主体的に関わった生徒会活動。クラス一丸となってしのぎを削り頂点を狙う、その連帯感が全身を震わす程の興奮をもたらした駅伝大会、クラスマッチ、体育祭。山東祭では、実行委員を中心とし、スタッフ、生徒皆の知恵と工夫を凝らした企画で来場者の皆さんと全校生を笑顔にしました。3年間、様々な活動に対して必死に熱く取り組んで参りました。この仲間と共に歩んだ日々を私たちは決して忘れることはありません。

時に悩み、憂鬱さを覚えることも多々ありました。しかし、山形東高に入学できて本当によかった。この言葉を私は声を大にして申し上げたいと思います。

そして私たちの高校生活を支えていただいた多くの方々に感謝申し上げます。

まず、授業・探究活動・生徒会活動・学校行事と多岐にわたり親身にご指導いただいた先生方、本当にありがとうございました。先生方のおかげで多くの可能性に満ち溢れた今の私たちがいます。先生方の教えを胸にこれからも頑張る参ります。今後とも私たちの飛躍を温かく見守っていただけると幸いです。

次にこの会場にいらっしやらないことが大変残念ではありますが、保護者の皆様、高校入試から大学入試までの三年間の山東生活、本当にお世話になりました。一番身近なところで私たちを支え、いつも気にかけて下さったのは家族でした。私たちは今後自立に向けて大きな一歩を踏み出しますがまだお世話になることもたくさんあると思います。宜しくお願い致します。

また常に私どもの学校生活をサポートして下さった同窓会の皆様にも感謝申し上げます。各方面でご活躍されている多くの同窓生の皆様から受ける刺激は、山東ならではであったと思います。毎年の創立記念式典や各種講演会等で多くの山東OB、OGの皆さんのお話を拝聴する機会がありましたが、大企業の重役をお務めの方、政府の重要ポストを歴任された方など東高だからこそその貴重なネットワークの繋がりを感じています。

私たちにあって大学入試の突破がゴールではありませんし、山東も、単に有名大学に進学する生徒

が多いからというだけで社会から評価されているわけではありません。山東を卒業された諸先輩方が各方面で社会に対して貢献をしてこられたことに私たちは目を向ける必要があるのではないのでしょうか。そして諸先輩方のように活躍できるよう、我々も努力を積み重ねていく必要があるのだと思います。

そして何よりこの三年間を共に歩んだ仲間たち。本当にありがとうございます。励まし合い、高め合い、時に衝突もしながら充実した時を共有してきました。共に将来を語り合える仲間と出会えたことは私にとって一生の財産です。今後ともこの繋がりを大切に参りましょう。

私たちが歩む令和時代。この令和には人々が美しく心寄せ合う中で文化は花開くという意味が込められているそうです。また、安倍晋三内閣総理大臣は昨年元号発表記者会見の中で、「希望に満ちあふれた、新しい時代を切り開いていく、若い世代が活躍できる時代であってほしい。若者がそれぞれの花を咲かせることのできる日本をつくりたい」と語っていました。若者が活躍できる社会。その主体は紛れもなく私達です。そして、その活躍できる社会はただ待っているだけではいつまでたっても訪れる事はない、私達が自らの手で切り開いていくべき社会なのだろうと私は強く感じます。令和元年度の卒業生としてこのことを深く胸に刻む必要があると考えます。

我々は高校卒業を機に様々な場所へ飛び立っていきます。そんな時に心に留めておきたいのは我々の故郷山形県のことです。我々の故郷山形。豊かな自然、伝統的な産業や祭り、美味しい食べ物、温かい人々。多くの魅力があります。これはこの場所で暮らしてきた私たちにとっては当たり前のものになっているかもしれません。しかし、山形県の魅力はオリエンタルカーペットやユネスコ創造都市ネットワークをはじめ今や日本全国、世界に誇る宝になりつつあります。また山形を舞台としたドラマ「おしん」は世界七十ヶ国以上で放映されておりイランでは視聴率90パーセントを記録したと言われています。先日東高を訪問されたインドネシアの外交官の皆様もおしんの舞台が山形であると知り、大変驚かれておりました。

「山河我を生むの鴻恩に報いん。」

山形東高校の大先輩にあたり、国際連盟常設国際司法裁判所所長も勤められた外交官、安達峰一郎博士。偉大な先輩の残した言葉には自らの故郷への深い感謝と愛が込められています。山形東高校、山形県で過ごした日々は間違いなく私たちのアイデンティティの一つです。「心に山形を、視野に世界を」これをモットーとしこれからの人生を歩んで参ります。

来年度より我々の母校山形東高校は大きな変化を迎えます。全ての学年が二学科体制となり、これまで以上に「探究」という言葉がキーワードになるでしょう。135年の長い歴史の中で受け継がれてきた伝統のなかに、典型的、杓子定期的という言葉とは無縁の、より一人一人の個性が生きる雰囲気を作り出していく新生山東を期待します。

結びとなりますが、新生山東の益々の発展と繁栄を祈念するとともに、我々令明会一同、それぞれの場所で令和という新時代を明るく照らす燈火として山形、日本、世界の運命を雄々しく負わん存在になることができるよう常にチャレンジャー精神を持って精進して参ることをここに決意し答辞とさせていただきます。

本日は誠に有難うございました。

令和2年3月3日

山形県立山形東高等学校
卒業生代表 長澤パティ 明寿